

宇都宮宗康 議員



(二問一答方式)

- ① 肱川の減災対策
- ② えひめ国体開催
- ③ 教職員の削減圧力
- ④ 伊方原発3号機再稼働

肱川の減災対策について

問 市内10地区において、浸水被害の軽減を目的に排水路の整備や内水排除のための釜場を設置し、ポンプによる排水を計画されているが、進捗状況はどうなっているのか。また、地域住民に理解が得られての事業となっているのか。

答 肱川の減災対策については、平成25年度より実施可能なものから順次事業に着手しています。

進捗状況については、10地区のうち5地区で排水路等の整備やポンプによる排水委託を完了しています。残り5地区のうち柚木地区では、旧嵩富川からの流水を新嵩富川へ排水する対策工事を実施し、平成28年度に完成する予定です。その他の地区については、地域のお話の中で実施が困難な地区もありますが、現在、国、県等との協議を行い、実施に向けて努力しているところです。

えひめ国体開催について

問 えひめ国体は、当市において八幡浜・大洲地区運動公園などを中心としてソフトテニス、ソフトボール競技などが開催される。市内の小中学校の多くは、その頃に秋の運動会を計画されていることと思うが、リハーサル大会や国体における全国のすばらしい競技を観戦できる機会を設けることは考えているのか。

答 市内の児童・生徒を対象とした応援観戦については、リハーサル大会では9月17日、18日

えひめ国体開催に向け整備が進められている野球場（八幡浜・大洲地区運動公園）



の2日間に開催するソフトボール競技を基本に、教育委員会及び校長会に学校単位あるいは学年単位による観戦について御協力いただくようお願いし、協議を進めているところです。国体時には、リハーサル大会の観戦実施状況を踏まえ必要な対策を検証し、全競技を対象とした応援観戦が実施できるように計画していきます。

教職員の削減圧力について

問 財務省は全国の公立小中学校の教職員を削減するように求

めているようだが、これは機械的に人数割合を決め、少子化の影響を当てはめたものである。文科省の発表では、公立の小中学校の教員などの1日平均在校時間が十二、三時間に上っているとのことである。

財務省の予算編成には疑問が残るが、教職員削減要求に文科省が応じた場合、市としてどのような対応をされるのか。

答 学校現場は様々な課題を抱えており、教職員が多忙をきわめていることは間違いなく、もし教職員削減要求に文部科学省が応じた場合、今以上に勤務にしわ寄せが来るおそれがあります。

そこで、全国市町村教育委員会連合会で、全国の市町村教育委員会の意見を集約し、平成27年10月30日付で教職員の定数削減に反対する緊急要望書を、内閣総理大臣ほか官邸、内閣、財務省及び与党の関係者に提出したところです。

大洲市教育委員会としては、今後も機会を捉えて、教育力の低下につながる教職員定数削減とならないよう、県や国に強く要望していきたいと考えています。